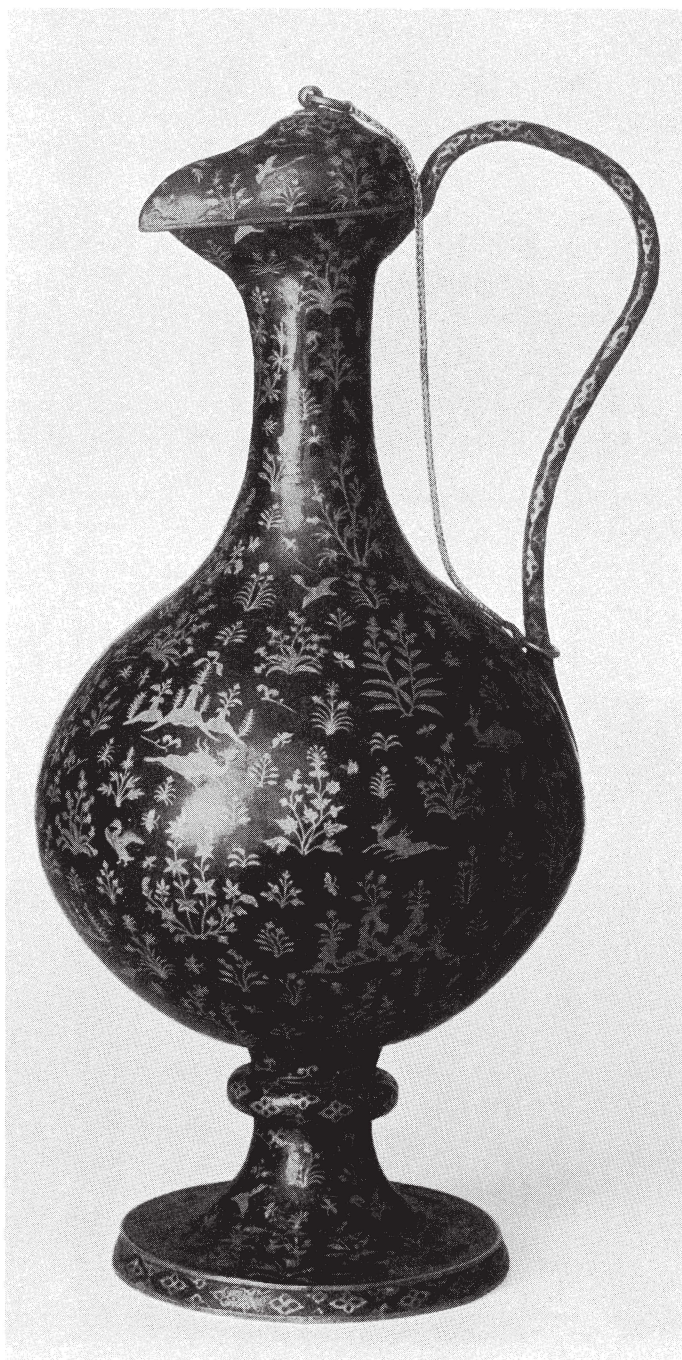


第27号

奈良
国立博物館
だより

平成10年 10・11・12月



第50回 正倉院展

10月24日(土)～11月9日(月)

西新館

会期中無休

9時～17時(入館は16時30分まで)

金曜は9時～20時(入館は19時30分まで)

特別陳列

春日信仰の美術

11月28日(土)～12月23日(水/祝)

西新館

平常展

仏教美術の名品

10月1日(木)～

本館

無料観覧日 12月17日(木)

年末年始の休館 12月24日(木)～1月4日(月)

【写真解説】

漆胡瓶(ペルシャ・スタイルの水さし)

高41.3cm 胴径18.9cm

鳥の首を思わせる注口を丸く張った胴部にのせ、弓なりの把手と裾広がりの台脚を備えた水瓶。この形はササン朝ペルシャで流行したもので、やがて中国にもたらされ、「胡瓶」と呼ばれて愛好された。全面に黒漆を塗り、鹿・羊・鳥・蝶・草花・山岳の形に切った銀板で文様を施している。唐時代の東西交流が産み出した代表的な宝物である。

(第50回正倉院展より)

第50回 正倉院展

10月24日(土)～11月9日(月)

秋の奈良で開催される恒例の「正倉院展」は、今年で第50回となりました。戦後まもない昭和21年（1946）に開催された「正倉院展」は、日本の文化が優れたものであることを改めて自覚させる契機となり、敗戦にうちひしがれた人々に大きな勇気を与えました。このため翌年からも継続して行われることになり、今では国民的行事として親しまれています。

今年は、74件（このうち初出陳7件）の宝物が出陳されますが、50回目にふさわしい名品が数多く含まれているのが特色です。

なかでも注目されるのが赤漆文櫛木御厨子^{せきしつぶんかんぼのおんずし}です。これは天武天皇から持統・文武・元正・聖武・孝謙の歴代天皇に受け継がれた由緒正しい厨子で、光明皇后の献納目録である『国家珍宝帳』には「古様作」と註記されています。天平時代の人々にとってさえ、天武天皇の御代はすでに遥かなる時代だったのでしょう。今回は、この厨子の中に納められていた聖武天皇の宸筆^{しんぴつ}「雑集」^{ざっしゅう}や紅牙撥鏤尺^{こうげばちるのしゃく}などもあわせて出陳されます。

「雑集」は、聖武天皇が31歳の時に書いた宸筆^{しんぴつ}（天皇の自筆）で、中国の詩文集から仏教に関する百四十篇余りを抄出したものです。文字の線は鋭く、唐の褚遂良^{ちすいりょう}を思わせる見事な筆跡です。

また今年は、正倉院宝物の国際性を実感させてくれる宝物も数多く出陳されます。

このうち漆胡瓶^{しつこへい}（表紙写真）は、鳥首形の注口をもつペルシャ・スタイルの水瓶で、黒漆を塗り、鹿・羊・鳥・蝶・草花・山岳の形に切った銀板で全体を飾っています。この漆胡瓶は中国で制作されたもので、唐時代の東西交流が産み出した遺品と言えるでしょう。『国家珍宝帳』に記載されていることから聖武天皇の手元にあったことが知られ、その異国風の姿で有名です。

このほか、ペルシャで制作された白瑠璃瓶^{はくるりのへい}、美しい唐花文様の花氈^{からなもんよう}、木画^{もくが}紫檀双六局^{したんもくがそうろく}などの遊戯具、紫檀木画槽琵琶^{したんもくがそうのびわ}や新羅琴^{しらぎごと}などの楽器、呉女^{ごにょ}や迦樓羅^{がら}などの伎楽面^{ぎがくめん}といった国際性に富む美しい宝物が、時を超えて、華やかな天平文化^まを目のあたりに見せてくれることでしょう。道鏡^{みちかがみ}の自筆文書3通が久しぶりに公開されるのも見逃せません。

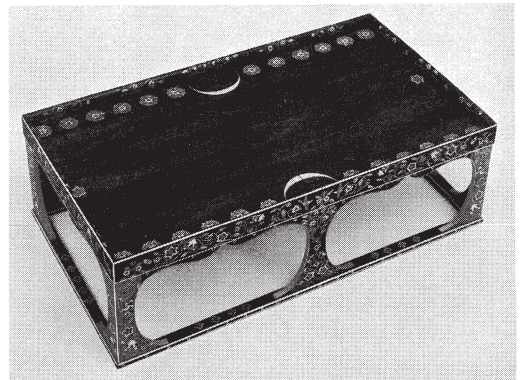
特別陳列 春日信仰の美術

11月28日(土)～12月23日(水/祝)

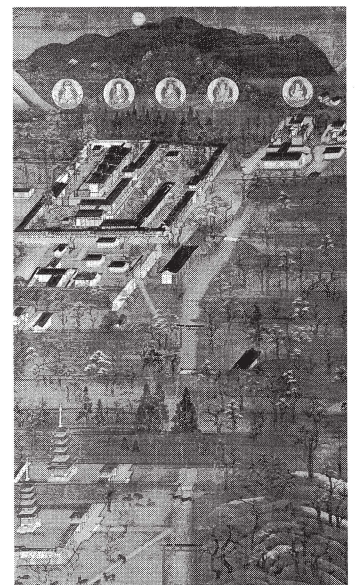
奈良では12月17日に春日若宮の「おん祭」が催されます。この「おん祭」にちなみ、春日信仰に関する作品を展示します。春日神鹿関係、舍利・宝珠関係、宮曼荼羅、本地仏など、春日信仰のさまざまな形を御覧いただき、春日信仰への理解をさらに深めていただけるものと思います。



赤漆文櫛木御厨子



木画紫檀双六局



◎春日宮曼荼羅（南市町）

正倉院展 西新館

漆胡瓶(ペルシャ・スタイルの水さし)、白瑠璃瓶 (ペルシャ・スタイルのガラスの水さし)、古
人鳥夾纈屏風(板締め染めの屏風)、鹿草木夾纈屏風(板締め染めの屏風)、白石鎮子 青龍・朱
雀(大理石のレリーフ)、白石鎮子 白虎・玄武(大理石のレリーフ)、木画紫檀双六局(双六の
盤)、*塗縁遶縁双六局龕(双六盤のいれもの)、赤漆文櫨木御厨子 付 金銅鎮子・匙(ケヤキ厨
子)、双六子箱(双六玉の箱)、双六頭(象牙のさいころ)、双六頭(象牙のさいころ)、水精双六子
(水晶の双六玉)、琥珀双六子(琥珀の双六玉)、黄瑠璃双六子(ガラスの双六玉)、浅緑瑠璃双六
子(ガラスの双六玉)、緑瑠璃双六子(ガラスの双六玉)、藍瑠璃双六子(ガラスの双六玉)、白碁
子(碁石)、黒碁子(碁石)、紅牙撥鏤尺(染象牙のものさし)、緑牙撥鏤尺(染象牙のものさし)、
三合鞘御刀子(三本組の小刀)、牙笏(象牙の笏)、御書箱、雑集(聖武天皇の御書)、弘仁二年勘
物使解(宝物点検の報告書)、正倉院古文書正集(良弁自署文書・道鏡牒ほか)、統修正倉院古文

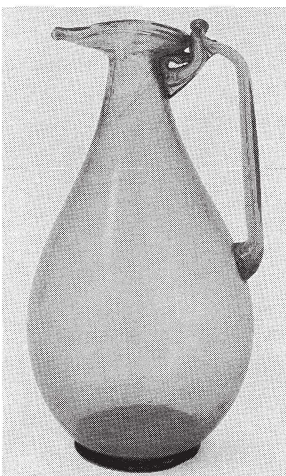


花氈

書第二卷(御野国加毛郡半布里戸籍ほか)、正倉院古文書正集
第三十八卷(筑前国嶋郡川辺里戸籍)、*続々修正倉院古文書
第三十五帙第五卷(常疏紙充帳/紙背:下総国葛飾郡大島郷戸
籍ほか)、正倉院古文書正集第四卷(安拝常麻呂解ほか)、正倉
院古文書正集第三十七卷(紀伊国正税帳ほか)、正倉院塵芥古
文書第七卷(尾張国正税帳)、人勝残欠雑帳 付 残片(新春の
挨拶状)、子日目利箒(儀式用の玉かざり箒)、粉地彩絵倚几
(玉かざり箒の台)、薄絹覆、縹纈純帯(絞り染めの帯)、子日手
辛鋤(儀式用の鋤)、粉地彩絵倚几(鋤の台)、夾纈純 褥(机の
敷物)、安君子半臂(短袖の胴着)、持笠半臂(短袖の胴着)、力
士脛裳(脚覆い)、呉女背子(袖なしの短衣)、*伎楽面 師子
児、伎楽面 迦楼羅、伎楽面 呉女、伎楽面 崑崙、*伎楽面 太
孤児、伎楽面 酔胡王、組帯、刺繡羅帶、笛吹襪(靴下)、錦襪
(靴下)、花氈(フェルトの敷物)、褐色絹裳(絹のスカート)、縹纈純袍(上着)、山水花虫背円鏡
付 題箋・緋純帯、漆皮箱(鏡箱)、十二支八卦背円鏡(十二支と八卦文の鏡) 付 緋純帯、六角
椀箱金銅鎮子・匙(鏡箱)、蘇芳地金銀絵花形方几 付 白橡綾几褥(献物机)、粉地金銀絵八角几
(献物机)、金銀平脱皮箱(献物箱)、沈香木画箱(献物箱)、紫檀木画槽琵琶(寄木細工の琵琶)、
新羅琴 付 琴柱、呉竹笙(楽器)、尺八(楽器)、*十地経論卷第一(隋経)、*顕揚聖教論卷第十
四(唐経)、*毘尼母経卷第一(光明皇后御願経) 《*は初出陳》

特別陳列「春日信仰の美術」 西新館

春日若宮御祭図屏風(奈良県立美術館)、鹿島立神影図(当館)、◎五輪塔嵌装舍利厨子(不退
寺)、春日鹿曼荼羅(当館)、春日鹿曼荼羅(西城戸町)、◎春日神鹿御正体(細見美術財団)、四
方殿舍利厨子(能満院)、春日神鹿舍利厨子(当館) <写真>、宝塔嵌装舍利厨子、春日龍珠箱
<内・外箱>、◎春日宮曼荼羅(南市町)、春日宮曼荼羅(当館)、春日名号曼荼羅、春日曼荼羅
彩絵舍利厨子、南門堂曼荼羅(長谷寺)、春日社寺曼荼羅(当館)、◎春日本迹曼荼羅(宝山寺)、
春日赤童子像(植槻八幡神社)、十一面観音像(当館)、春日毘沙門天曼荼羅(当館)、春日地藏
曼荼羅(当館)、◎春日浄土曼荼羅(能満院)、千体地藏図、千体地藏等厨子扉絵



白瑠璃瓶



伎楽面 呉女



春日神鹿舍利厨子(当館)

平常展「仏教美術の名品」 本館 主な出陳品

【彫刻】

◎銅造弥勒菩薩半跏像(神野寺)、◎銅造観音菩薩立像(金剛寺)、◎
銅造観音菩薩立像(法隆寺)、銅造観音菩薩立像(当館)、銅造軍荼利
明王坐像(園城寺)、◎銅造阿弥陀三尊立像(東京国立博物館)、塑造
侍者坐像、金銅菩薩立像(以上当館)、◎銅造薬師如来立像(般若
寺)、◎銅造如意輪観音半跏像(東大寺)、◎木造伝教脱菩薩立像(秋
篠寺)、◎木造虚空蔵菩薩半跏像(北僧房)、◎木造観音菩薩立像(本
山寺)、木造如来立像(当館)、◎木造薬師如来立像(元興寺)、◎木造
十二神将立像(東大寺)、◎木造板彫十二神将像のうち(興福寺)、◎
木造八幡三神坐像(薬師寺/写真)、◎木造大將軍神像(大將軍八神社)、木造天部坐像(観音寺)、◎木造多聞天立
像(当館)、◎木造広目天立像(興福寺)、◎木造大日如来坐像(当館)、◎木造十一面観音立像(薬師寺)、◎木造十一
面観音立像(地福寺)、◎木造十一面観音立像(観心寺)、◎木造十一面観音立像(勝林寺)、◎木造重源上人坐像(浄
土寺)、木造阿弥陀三尊像(峰定寺)、◎木造地藏菩薩立像(東大寺)、◎木造地藏菩薩立像(長命寺)、木造弥勒菩薩
立像(林小路町) 《特別出陳》◎銅造薬師如来及び両脇侍像(薬師寺)〔西新館/10月24日(土)～11月9日(月)、11月28
日(土)～12月23日(水)〕

【絵画】

～10月25日(日)

◎聖徳太子及び天台高僧像、◎阿弥陀如来像(以上一乗寺)、◎十一面観音像(能満院)、十一面観音像、文殊菩薩
像、普賢菩薩像、◎十二天像(以上当館)、◎一字金輪曼荼羅(南法華寺)、法華曼荼羅(下部神社)、◎華嚴海会善知
識曼荼羅(園城寺)、◎華嚴五十五所絵、華嚴五十五所絵(以上当館)

10月27日(火)～11月29日(日)

◎聖徳太子及び天台高僧像(一乗寺)、釈迦三尊十六羅漢図(海住山寺)、◎四十九体化仏来迎図(光明寺)、◎二河
白道図(雲辺寺)、◎善導大師像(知恩寺)、◎十一面観音像(金心寺)、◎不動明王二童子像(琉璃寺)、◎毘沙門天像
(知恩院)、◎矢田地蔵縁起(金剛山寺)、◎地藏十王図(能満院)、◎五百羅漢図(大徳寺)

12月1日(火)～12月23日(水)

◎聖徳太子及び天台高僧像(一乗寺)、◎釈迦三尊像(総持寺)、薬師十二神将像(正暦寺)、◎地藏菩薩像(当館)、◎
十一面観音像(太山寺)、◎文殊菩薩像(西大寺)、弥勒菩薩来迎図、◎当麻曼荼羅縁起(当麻寺)、◎行基菩薩絵伝
(家原寺)、十王図(海住山寺)、◎五百羅漢図(大徳寺)

【書跡】

～10月25日(日)

◎開元寺求法目録、◎太政官給公験牒<先本>(以上園城寺)、◎法華經<色紙経>(当館)、紺紙金字法華經(興聖寺)、
毘尼母経巻第五<足利尊氏願経>、版本大般若経巻第三百六十五(以上当館)

10月27日(火)～11月29日(日)

◎弥勒講式、◎地藏講式(以上笠置寺)、◎春日権現講式(高山寺)、◎造東大寺司請経牒、華手経巻第十二<五月一
日経>(以上当館)、自在王菩薩経<五月十一日経>(海龍王寺)

12月1日(火)～12月23日(水)

◎円珍俗姓系図、◎国清寺求法目録(以上園城寺)、◎西大寺三史料田畠目録、◎叡尊自筆書状(以上西大寺)、◎法
華経(長谷寺)、◎一字蓮台法華経(龍興寺)

【工芸】

◎金銅透彫華鬘(中尊寺金色院)、金銅種子華鬘、散蓮華文螺鈿卓(以上当館)、◎当麻曼荼羅厨子扉(当麻寺)、銭弘
倣八万四千塔、宝篋印塔(以上当館)、百万塔及び陀羅尼経(当館)、銅経筒(施福寺)、◎金銅透彫経筒(万徳寺)、一
面器及び水瓶、金山寺香炉(以上当館)、金銅塔碗形香合、金銅柄香炉(高山寺)、◎銅三具足(聖衆来迎寺)王子形水
瓶、王子形水瓶<かぶら形>、仙蓋形水瓶、◎銅梵鐘(以上当館)銅梵鐘(海住山寺)、◎銅罍口(長谷寺)、孔雀文磬、磬
架(以上当館)、◎金銅密教法具(厳島神社)、◎銅鐃(円福寺)、銅三鈎杵<古式>、金銅独鈎杵(以上当館)、金銅三鈎
杵、金銅五鈎杵(当館)、◎金銅四天王鈴(弥谷寺)、銅三昧耶鈴(金峯山寺)、金銅五鈎鈴(当館)

[10月27日(火)～11月29日(日)]種子阿弥陀三尊繡仏(大福田寺)、密教宝珠嵌装舍利厨子(金剛山寺)、金銅火焰宝珠形
舍利容器、金銅火焰宝珠形舍利容器、◎孔雀鎗金経箱(浄土寺)

[12月1日(火)～23日(水)]刺繡阿弥陀三尊来迎図(中宮寺)、◎当麻曼荼羅厨子扉(当麻寺)、金銅透彫舍利容器(西大
寺)、金銅火焰宝珠形舍利容器(海龍王寺)、宝篋印塔嵌装舍利厨子(福田寺)、◎蓮唐草蒔絵経箱(当館)

【考古】

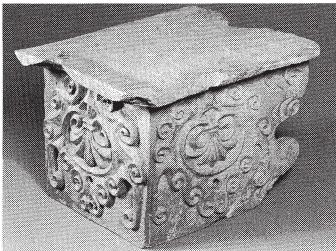
飛鳥～奈良時代の古瓦(当館など)、山村廃寺出土蓮花文鬼瓦、奥山久米寺出土蓮花文鬼瓦(京都国立博物館)、中
山瓦窯出土鬼瓦(当館)、秋篠寺出土鬼瓦、上野廃寺出土隅木蓋瓦(当館/写真)、橘寺出土方形三尊博仏(当館)、川
原寺出土方形三尊博仏(明日香村)、南法華寺出土方形三尊博仏(南法華寺)、山田寺出土博仏、天花寺出土博仏、夏
見廃寺出土博仏(以上当館)、豊安寺塔跡鎮壇具、平瓶形骨蔵器、◎出雲荻村
古墓出土品(以上当館)◎青磁鉢附瓦製鉢(正暦寺)、◎奈良・金峯山経塚出土
鍍銀経箱(金峯神社)、銅経筒<平治元年銘>、瑠璃鈕銅板製経筒(以上当館)、
朝熊山経ケ峯経塚出土品<銅経筒2口、銅鏡2面>(金剛証寺)、◎藤原道長願経
(金峯神社)、伝大分県出土紙本朱書法華経(当館)、◎銅板法華経(長安寺)、
飯盛山瓦経、青石経、泥塔経(以上当館)

[～10月25日(日)]◎佐井寺僧道薬基誌及骨壺、◎山城忌寸真作及妻墓誌(以上
当館)、新堂廃寺出土古瓦(大阪府教育委員会)、定林寺出土塑像頭部(当館)、
本薬師寺出土塑像頭部(薬師寺)、雪野寺出土塑像断片

[10月27日(火)～]◎東大寺金堂鎮壇具(東大寺)、◎元興寺塔跡鎮壇具(元興
寺)、中宮寺出土古瓦(中宮寺)



◎木造八幡三神坐像 (薬師寺)



上野廃寺出土隅木蓋瓦 (当館)

聖武天皇の宸筆「雑集」と奈良国立博物館

今年の4月に東新館がオープンし、東新館と西新館をつなぐ中央に、新たに奈良国立博物館の正面玄関ができました。この新しいエントランスが、「天平展」「ブッダ展」「百済観音展」の入口になりました。このエントランスへ入る時は、必ず視線を上にあげてください。そこに「奈良国立博物館」の館名文字が見えます（写真）。この文字は、奈良国立博物館のために、聖武天皇がわざわざ書いてくれました…、といつも言うことにしています。本当に、聖武天皇の筆跡なのです。

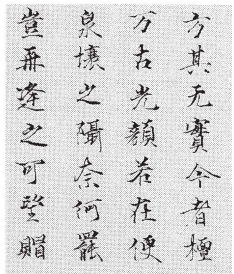
奈良国立博物館

新しいエントランスに付ける奈良国立博物館の館名文字をどうするか。会議で検討された末、私に任せられました。となれば、集字です。集字とは、すでに書かれた文字から該当する文字を捜し集めること。奈良国立博物館の館蔵品で、書跡の名品と言えば、なんとと言っても紫紙金字金光明最勝王経（国宝／奈良時代）です。ちなみに東京国立博物館にも新しい陳列館（平成館）が来年オープンします。その定礎の文字は、この紫紙金字金光明最勝王経から集字しています。

さっそく紫紙金字金光明最勝王経を読み始めました。10巻もありますから、「奈」「良」「国」「立」「博」「物」「館」の7文字くらいあるだろうと楽観していたのですが、さっぱり見つかりません。捜しているうちに、ここにはないぞという気配が感じられました。この気配というヤツは案外重要です。話は違いますが、私は連珠というゲームをやっていて、全日本チャンピオン（第18期名人）になったことがあります。夕刊フジという新聞に、私が入門してから名人になるまでのストーリーが3ヶ月にわたって連載されたこともあります。ある局面において、勝ちがあるかどうかは気配でわかる。というと言い過ぎになりますが、気配を感じることで勢いが勝負事にはとても大切です。

そこで私は、紫紙金字金光明最勝王経をスッパリあきらめました。次の狙い、それは『雑集』。正倉院に伝来する聖武天皇の宸筆（天皇の自筆）です。内容は、中国の六朝時代から唐時代にかけての詩文集から仏教に関する140篇あまりを抄出したもので、聖武天皇が31歳の時の筆跡です。「筆跡については、敏感な、線の細い文化人という定評がある」と、聖武天皇に関して青木和夫さんが書いています（中央公論『日本の歴史3 奈良の都』）が、私にはそうは思えません。『雑集』の文字は、よく見ると線が鋭く、文字の隅々にまで力が籠っており、唐の褚遂良を思わせる実に見事な筆跡です。拡大すると、そのことがよくわかります。

結局、『雑集』から集字したのですが、その作業の過程で一番印象に残っているのは「奈」です。この「奈」は21画42分の長い長い『雑集』の1ヶ所にしかありませんでした（写真の3行目）。これを見つけたのは私の長男の瑞穂（当時7歳）です。全巻の写真版を使い、休日に自宅で捜したのですが、「僕もさがす」と手伝ってくれた瑞穂が、おずおずと「お父さん、これは？」と聞いたのがこの「奈」でした。「おっ、でかした！」と二人は抱き合ったのですが、それはさておき、奈良の地にあって、仏教美術を中心に展示をし、毎年秋に正倉院展を開催する奈良国立博物館にとって、本当にふさわしいものができたと思っています。



雑集（部分）

その『雑集』は、今年の正倉院展で、奈良では32年ぶりに公開されます。聖武天皇の宸筆はふたつしか残っていません。『雑集』と『聖武天皇勅書』（国宝／平田寺）です。『聖武天皇勅書』は4月から6月にかけての「天平展」で展示されましたから、今年は一年のうちに聖武天皇の宸筆をふたつとも見られる稀有な年になったわけです。

不思議な仏足石

これは仏足石、つまりお釈迦さまの足形を刻みつけた石です。パキスタンのスワート考古博物館が所蔵しており、7世紀に玄奘（西遊記の三蔵法師のモデル）も見たという由緒あるもので、「ブッダ展」の目玉のひとつになっていました。「ブッダ展」にいられた136,802人の方々はよく御存知でしょうが、御存知の方も、御存知でない方も、もう一度この写真をよく見てください。足形はへこんでいるのでしょうか。ふくらんでいるのでしょうか。

へこんでいる。そうですね。では、今度は天地（上下）を逆にしてみてください。どうでしょう。ふくらんで見えませんか？ ほとんどの人には足形がふくらんで見える筈です。では、もとに戻して、今度は目をあけたまま（まばたきもせずに）天地を逆にしてみてください。へこんだままに見えるでしょう？

これは目の錯覚です。写真は平面ですから、本当はへこんでもふくらんでもないのですが、陰影がついているので、へこんで見え、天地を逆にすると今度はふくらんで見えるのです。ただし5人に1人くらいの割合で、天地を逆にしてもへこんだままに見える人がいます。その人は、その陰影を、へこんでいる状態と認識するよう脳にインプットされているわけです。

さあ、まわりの人にも見せてあげてください。「ええっ！ なんで！」と驚きの声があがる筈です。その時、アナタは静かにこう言ってください。「それが、仏足石の不思議なところですよ…」

（あ）



◆正倉院展講座

10月24日(土)	東西交流の視点よりみた聖武天皇御遺愛の品々	筑波大学教授	相馬 隆
10月31日(土)	正倉院伎楽面の分類	宮内庁正倉院事務所保存科学室長	成瀬正和
11月7日(土)	聖武天皇の宸筆「雑集」について	奈良国立博物館普及室長	西山 厚

午後1時30分より3時まで。講堂にて。聴講無料。ただし先着200名。

◆ギャラリートーク 毎月第2水曜日に実施します。

10月14日(水)	天台高僧像について	美術室長	梶谷亮治
11月11日(水)	地蔵と羅漢	学芸課長	宮島新一
12月9日(水)	春日信仰をめぐる	主任研究官	内藤 榮

午後2時より。10月・11月は本館、12月は西新館にて。入館者の聴講自由。

◆親と子の文化財教室 小学5・6年生と中学生、その保護者を対象にした教室です。

今年のテーマ〈奈良時代の歴史と美術〉

10月10日(土)	正倉院の宝物	工芸室長	阪田宗彦
11月14日(土)	奈良時代の絵画	美術室長	梶谷亮治
12月12日(土)	まとめ(聖武天皇と、聖武天皇を取巻く人々)	学習普及専門官	坎田俊作

ハガキに氏名・住所・郵便番号・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加を希望する月日(いくつでも構いません)を記入し、申込んで下さい。電話でも構いません。参加料は無料です。定員は200名(先着順)。申込みは学習普及専門官(電話 0742-22-7008)まで。

◆ボランティアによる作品解説

毎日、展示室(「正倉院展」は講堂)で、わかりやすい解説をおこなっています。

《速報》台風7号が奈良を直撃

9月22日に台風7号が奈良を直撃し、室生寺の五重塔(国宝)・法隆寺の回廊(国宝)・春日大社の回廊(重要文化財)など、文化財にも多くの被害が出ました。当館でも敷地内の松の木が倒れるなどの被害がありましたが、おかげさまで大事には至りませんでした。この日、激しい風雨のなか、429名の皆様が「百済観音展」のために来館されました!

開館時間 午前9時より午後4時30分まで(入館は午後4時まで) **正倉院展は別掲**
11月27日までの金曜日は午後8時まで(入館は午後7時30分まで)

休館日 月曜日(正倉院展は無休。平常展も11月2日と9日は開館)

観覧料金 毎月第2・4土曜日は、小・中学生無料(正倉院展は除く)

正倉院展		大人	高・大生	小・中生
	一般	830円	450円	250円
	団体	560円	250円	130円

平常展		大人	高・大生	小・中生
	一般	420円	130円	70円
	団体	210円	70円	40円

- * 正倉院展の料金で平常展もあわせて観覧できます。
- * 団体は責任者が引率する20名以上。
- * 正倉院展については土、日、祝日は団体の取り扱いを致しません。
- * 特別陳列「春日信仰の美術」は平常展料金で観覧できます。

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の普及室にお申し込み下さい。

〒630-8213 奈良市登大路町50 電話0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレホンサービス0742-22-3331 **奈良国立博物館**
ホームページ <URL> <http://www.narahaku.go.jp/>